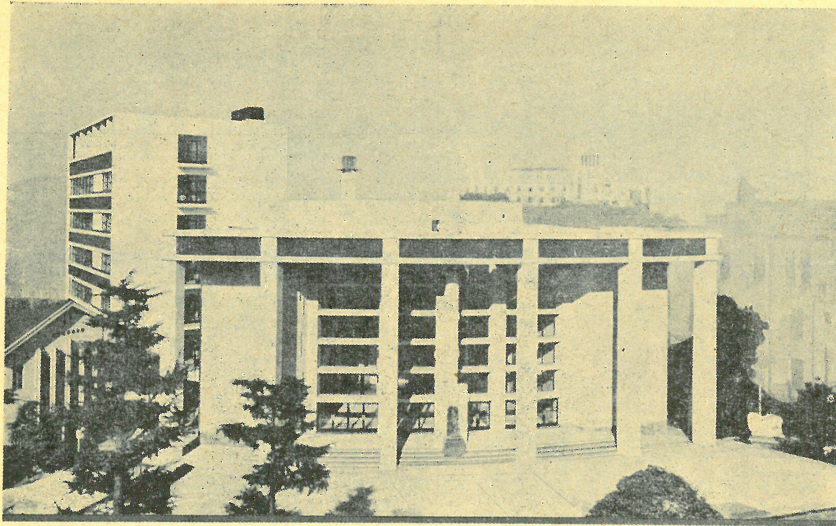


「結核予防会創立二十周年記念

全国結核予防大会」開催せまる



写真上は会場の社会事業会館

本会主催、厚生省・東京都後援による昭和三十四年度の全国結核予防大会は、本会が、昭和十四年に創立されてから今年でちょうど二十年目に当るので、この記念行事をも兼ねて、きたる五月二十二、二十三日の二日間、東京都千代田区三年町の社会事業会館で「結核予防会創立二十周年記念全国結核予防大会」と銘うって開催することになった。

本大会は結核予防事業について、あらゆる角度から討議してこれを政府への働きかけとするいっぽう、一般の人々の結核予防事業に対する認識をも深めようとするものであるが、とくに本会の創立二十周年記念にふさわしい行事とするよう計画をすすめている。参会者も皇室、各政党代表者をはじめとして、結核保健関係者約一、〇〇〇名を予定している。

複十字シール募金運動は

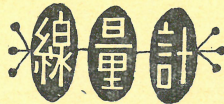
伸びなやみ

本会の複十字シール募金運動は、昭和二十七年に再開されて以来年とともに発展してきた。当初の売上総額は約九

山、島根県支部の成績が悪かったことが大きく響いているらしい。

百万円であつたが、昭和三十二年度において六千八百万円余と大きくはね上つたのである

以上の点から、わが国のシール募金運動はもう底をついたのだという見方はまだ早いというの、当事者の熱意と運動方法のいかんによつてはドンドン伸びる可能性のあることは一部の府県においてすでに実証済みであり、多くの支部ではまだまだ低調だからである。



状態になつた。その原因はどうもよく分らないが、各支部ごとの成績を調べてみると、今まで一番の大口であつた愛知県支部の成績が大幅に落ちたこと、昭和三十二年度において急に成績の伸びた和歌

本会が結核予防事業をより以上に進展させるための資金造成の道は、シール募金運動以外にはないということを、当事者はよく理解しなければならぬ。

(三谷)

大会の式次第についてのくわしいことは、まだ確定していないが、五月二十二日は、創立功労者・事業功労者・永年勤続者の表彰、結核検査優良市町村の表彰などの式典関係につづいて記念講演を行い、これで午前の

行事を終り、午後は結核対策等の問題についてのフォーラム、総合討議などの議事を予定している。

翌二十三日は全国支部事務責任者による事務連絡会議を行う予定である。